

四月十七日

## 由 緒

寛永四年（一六二七年）五月一日御正体山の里宮として勧請奉斎する。

社名も正しくは、御正体山若宮神社と称されている。

## 谷村地区 其の五

神社名 若宮神社  
鎮座地 都留市小野七番地  
祭神 大雀命、

おおさゝぎの命といい誉田別尊の王子で、仁徳天皇である。

例祭



御正体山山頂には、大山祇命が祀られていると  
いう祠がある。  
甲斐国社記に  
〔御正体社〕  
都留郡小野村  
宮礎式間半  
祭神 伊弉諾命、  
大山祇命、酒解  
命。  
祭日 九月廿九  
日、とある。  
また  
〔若宮社〕 同

郡小野

宮礎 武間

祭神 大佐々杵之命、

祭日 六月十九日

社地 堪八間横八間 除地

神主屋敷 壱畝拾武歩 年貢地

慶応四年辰八月 当時の神主小野將監、と記されている。

甲斐国志によると

一〔若宮社〕 祭神伊弉諾尊例祭九月九日、養蚕繁昌ノ祈念ニ遠

方ヨリモ參詣不レ絶 神主小野陸奥、となつてゐる。

社殿

入母屋向拝造りトタン葺、

社務所入母屋瓦葺 五間II三間半。

鈴 一。

鳥居 コンクリート製一基。

狛犬、神灯 各一対。

境内に小野田敏之鋳像がある。



神社名 御嶽神社  
鎮座地 都留市大野細野一九〇一一番地  
祭神 豊玉姫命、

大己貴命、

少彦名命、

例祭

四月十一日

現在は十一日を

中心に近くの日

曜日に行なつて  
いる。

神事用具

神楽奉納あり。

由緒

創立は遠い昔と  
だけ言い伝えら  
れ詳かでない。

口碑などによる  
と、本殿は正保  
二年（一六四五

年)の造営であるという。また、拝殿は棟札によれば、文政三年

(一八二〇年)の建築となつてゐる。

細野組の産神で、明治五年三月村社に列せられている。

山梨県市郡村誌に

〔御嶽社〕 村社々地東西武拾間南北拾間面積武百坪本村東方細

野細ニアリ祭神未詳祭日陰曆三月十二日、とある。

神社名	三輪神社	鎮座地	都留市大野柄苗代一、九七四番地
例祭		祭神	大物主命

(大国主命の別名である)

九月十日

昔は旧暦の七月  
二十日であった。

神事用具

神楽奉納あり。

この神樂は五穀  
豊穰の願いがこ  
められていて、  
女獅子で非常に

神様が喜ばれる  
舞であるといふ。



### 由緒

三輪神社は御正  
体山の登山口に  
あつて、その創

立年代は不詳であるが、小野熊野神社と同時の創立であるともい

われてゐる。この説によれば、小野熊野神社は大同二年(八〇七年)の創立とのこと故、当社は相當に古い創立であると考えられる。

創立と同時に植えられたと伝えられている社殿の四隅の大杉があつたが、今は後方二隅にその昔を物語つてゐる。

現社殿は文化年間(一八〇四～一八一七)に再建したものという。また三輪神社の社名は、菅野、細野、柄苗代の三部落の氏神で、

三つの輪がいつまでも仲よく栄えるようにといふ願いがこめられているとのことである。

山梨県市郡村誌に

〔三輪社〕 村社々地東西四拾六間南北拾九間面積八百七拾四坪  
本村東方細野組ニアリ云々、とある。

甲斐国志によると

〔三輪明神〕<sup>菅野</sup> 村 本村氏神ナリ社地見捨地神主神藤若狭攝レ之、  
となつてゐる。

当社は明治五年に村社となつてゐる。

社殿 道路右側石段を登り古木の生い茂つてゐる中に社殿がある。

本殿 切妻トタン葺 一間半一間半。

神社名	養蚕神社	鎮座地	都留市菅野
-----	------	-----	-------

例祭

養蚕大明神

## 由 緒

菅野川上流の菅野部落の村はずれで、道志村道坂峠に通ずる登り口右側、旧道志街道左側にこんもりとした森がある。その森の中に養蚕神社がある。

社殿の後方左右に二本の「水の木」という大木がある。その大木の根廻りは約九米もある。桂の木で、一本は逆さ木で枝が垂れ下っている。この桂の木を「水の木」という。

昔、弘法大師がまだ修業僧として諸国行脚中、道志村から谷村に下る途中、この桂の大木の根元にお休みになられた。その時傍らを流れている清水を見つけられて、持参の「ふくべ」に汲み喉をうるおされた。恰も昼食時であったので、大師は桂の木の枝を折って箸をつくり食事をされた。やがて食べ終った大師は、一本の箸を逆さに一本の箸を正常に、それぞれ土にさしてふくべの水を注ぎ、立派な木になるようお祈りして修業の途につかれたと伝えられている。長い年月を経て成長した二本の桂の木を「水の木」と呼び、ふくべに汲んだ流れを「ふくべ水」と今も呼び伝えられている。

この「水の木」から一キロ奥に小種沢という沢がある。この沢の中腹に小種岩と呼ぶ岩山がある。この岩山に村の人々は養蚕の神六年に拝殿が新築されている。

明治五年五月村社となる。



## 由 緒

創立は寛永十四年（一六三七年）といわれ、雨屋は宝曆四年（一七五四年）に建てられている。大正十一年に修理され、昭和二十六年に拝殿が新築されている。

## 社 殿

本殿は拝殿の中

にあり、拝殿は

入母屋トタン葺

で二間II五間で

ある。

神庫一棟一間半

II二間、

鳥居は木造一基

がある。

境内一四〇坪に

して小山の中腹

森巖なる中にあ

る。

## 例 祭

四月二十四日。

今はほとんど祭事は行なわれていない。

## 由 緒

大津一族七軒二十四世帯の氏神として、太古より奉斎され尊信を受けられていた。

昭和十五年七月拝殿の改築が行なわれている。

昭和四十二年、宗教法人条例外となり、大津本家個人の屋敷神と

なる。

## 社 殿

大津本家の裏山樹林の中に安置され大きな杉の木がその昔を物語っている。今は竹林にかこまれていて参詣も困難な状態にある。

弘法大師の銘のある石碑がこの神社に祀られているという。

を祀りお祭りを続けて来た。

ところがこのお宮は、部落から一キロもあり急な坂道でお詣りも困難のため、明治四十三年に村の総意によって、弘法大師の御徳と、水の木の由来を尊んで、二本の水の木の真中に養蚕神社の前宮「おしらがみさま」としてお祀りし現在に至っている。

## 社 殿

本殿 一間社流造り、トタン葺。

拝殿 切妻造りトタン葺 三間II一間半。

賽錢箱一、昭和三年九月十日  
御大典記念と銘がある。

## 神社名 御 嶽 神 社

鎮座地 都留市大野四七六番地

祭 神 大己貴命、

須佐之男命、

少彦名命、